

河井継之助略年表

西暦	和暦	年齢 (数え年)	主な出来事
1827	文政10	1	正月元旦 長岡城下に生まれる
1841	天保12	15	崇徳館の質問生になる
1842	天保13	16	元服し、秋義と名のる
1843	天保14	17	立志の誓い
1850	嘉永3	24	榑野嘉兵衛の妹、すがと結婚する
1851	嘉永5	26	江戸に遊学する 齋藤拙堂、古賀茶溪の久敬舎、佐久間象山に学ぶ
1853	嘉永6	27	藩主に建言書を提出する。評定方随役になる
1854	嘉永7	28	家老から藩政に参画することを阻まれる
1857	安政4	31	家督を相続する
1858	安政5	32	外様吟味役となり、宮路騒動を解決する 12月 江戸へ向かう
1859	安政6	33	正月 再び久敬舎に入る 6月 江戸を出発し西国遊歴に向かう 7月 山田方谷を訪ねる
1860	万延元	34	4月 江戸に戻り、久敬舎に入る
1861	文久元	35	長岡に帰る
1863	文久3	37	京都詰を命ぜられる 藩主牧野忠恭に京都所司代辞職を進言 継之助は長岡に帰る
1864	文久4 元治元	38	江戸詰になる 藩主に老中辞任を進言 5月 職を辞して長岡へ帰る
1865	慶応元	39	再び外様吟味役になり山中騒動に対応する 10月 郡奉行になる
1866	慶応2	40	11月 番頭格、町奉行、郡奉行を兼務
1867	慶応3	41	4月 江戸詰、奉行になる 9月 小諸騒動を解決する 12月 建白書を朝廷に提出する 河井の改革 遊郭の廃止、川の通行税の廃止
1868	慶応4	42	正月 藩主牧野忠訓と大坂を退去し、江戸に向かう 3月 兵制・禄高を改正 4月 家老になる 閏4月 家老上席・軍事総督になる 5月2日 小千谷談判決裂 5月19日 長岡城落城 7月25日 長岡城奪還 7月29日 長岡城再度落城 8月16日 会津塩沢にて没する

参考資料：『ふるさと長岡の人びと』長岡市、『河井継之助』稲川明雄／著 新潟日報事業社

長岡市立中央図書館
令和2年2月作成

河井継之助を知る

2020年、映画「峠 最後のサムライ」が公開されます。主人公は越後長岡藩の家老、河井継之助。幕末という激動の時代を駆け抜けた河井継之助とはどんな人物だったのでしょうか。図書館で所蔵する本の中から、継之助や戊辰戦争について知ることができる資料を紹介します。

人物像

河井継之助（1827-1868）（かわいつぎのすけ）

文政10年（1827）正月元日河井代右衛門秋紀・貞子の長男として城下で生まれた。通称は継之助、名は秋義、蒼龍窟と号した。江戸に遊学したのち、備中松山藩にて山田方谷に師事、藩政改革や、陽明学を学ぶ。

帰国の後、藩政に携わり慶応3年には家老職に昇進。藩政改革に取り組み、財政再建にも着手した。藩士の禄高改正、藩兵の洋式化などを断行し、軍事総督に就任、武装中立を唱えたが、同4年5月新政府軍の軍監岩村精一郎との小千谷会談で藩の嘆願を聞き入れてもらえず、奥羽越列藩同盟軍に属して開戦。

落城した長岡城の奪還に成功するも重傷を負い、8月16日会津領塩沢（福島県只見町）にて42年の生涯を閉じた。（『長岡歴史事典』より）



河井継之助の活躍を知るには

『決定版河井継之助』 稲川 明雄／著 東洋経済新報社 2012

河井継之助の生涯を綿密に分析。継之助と長岡藩の姿を浮き彫りにしています。

『峠』 上・中・下巻 司馬 遼太郎／著 新潮社 2003 新潮文庫

長岡藩士・河井継之助の名を一躍世間に知らしめた歴史小説。

『馬上少年過ぐ』 司馬 遼太郎／著 新潮社 1978 新潮文庫

司馬遼太郎珠玉の短編集。「英雄児」には、江戸遊学と北越戊辰戦争における継之助が描かれています。

『河井継之助写真集』 安藤 英男／著 横村 克宏／写真 新人物往来社 1986

河井継之助や関係する人物についての史料を写真で紹介したもの。

『河井継之助の生涯』 安藤 英男／著 新人物往来社 1987

「塵壺」の校注を手掛けた著者による評伝。

『河井継之助傳』（復刻版） 今泉 鐸次郎／著 小西 四郎／解題 象山社 1980

長岡の歴史家による河井継之助伝記の決定版。昭和6年出版の復刊。

『塵壺 河井継之助日記』河井 継之助／著 安藤 英男／校注 平凡社 1974 東洋文庫

河井継之助が西方遊学の際に記した旅日記。読みやすく翻刻されています。



河井継之助書
(長岡市立中央図書館所蔵)

長岡の戊辰戦争について知るには

- 『長岡郷土史』特集・戊辰戦争をめぐる(一)(二) 長岡郷土史研究会 1979 1986
- 『長岡市史双書 No.31 長岡藩戊辰戦争関係史料集』長岡市 1995
- 『北越戊辰戦争史料集』稲川 明雄/編 新人物往来社 2001
- 『補訂 戊辰役戦史』上・下巻 大山 柏/著 時事通信社 1988
- 『長岡城燃ゆ』稲川 明雄/著 恒文社 1991

河井継之助のゆかりの人物

- 『入門 山田方谷』山田方谷に学ぶ会/著 明德出版社 2007
備中松山藩(現岡山県高梁市)の儒家・陽明学者。継之助が藩政改革を学んだ師。
- 『小林虎三郎』稲川明雄/著 新潟日報事業社 2010
河井継之助とは近所の幼馴染であり遠縁にあたる。長岡藩大参事。米百俵の逸話で有名。
- 『三島億二郎傳』今泉 省三/著 覚張書店 1957
河井継之助、小林虎三郎とは近所の幼馴染。戊辰戦争で敗れた長岡の復興に奔走。

河井継之助のゆかりの地に行ってみよう

- 『河井継之助の足跡をたずねて 北越戊辰戦争史跡めぐり』
新潟県長岡地域振興局、新潟県三条地域振興局 2019
長岡とその近郊に残る河井継之助の足跡や北越戊辰戦争の史跡を紹介。
- 『河井継之助の足跡を画く 旅日記・塵壺を中心に』
池澤 寛/著 博進堂 2010
「塵壺」のスケッチ紀行。継之助が見た景色に思いを馳せながら楽しむことができる一冊。

河井継之助ゆかりの史料を見るには

◆河井継之助記念館

長岡市長町1丁目甲 1675-1
TEL0258-30-1525
開館時間 10:00~17:00 年末年始休
大人 200円 高校・大学生など 150円 小・中学生 100円
<http://tsuginosuke.net/>
戊辰戦争で使用したガトリング砲(複製)や継之助の書、書状などが展示されています。

◆長岡市立中央図書館

所蔵している河井継之助の書や旅日記「塵壺」は「ながおかネットミュージアム」でご覧いただけます。
<https://opac.lib.city.nagaoka.niigata.jp/museum/>



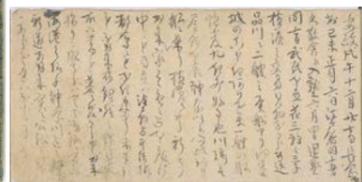
河井継之助記念館



ガトリング砲(複製)



「塵壺」とは・・・
河井継之助が西方遊学の際に記した旅日記。縦約8センチ、横約17センチの横綴りの冊子で、本文には美濃紙を使用している。継之助は他に著書がないため、継之助の唯一の著書である。



「塵壺」(長岡市立中央図書館所蔵)

まんが ふるさと長岡の先人



作画/おんだちかこ

つぎの世も見据えていた“ラストサムライ”

幕末の長岡藩家老、軍事総督。当時日本に三門しかなかったガトリング砲を購入する一方で、戦争をさける努力も続けたリアリスト。長岡を舞台にした司馬遼太郎の小説『峠』の主人公として、今なお多くの人に影響を与えています。

『まんが ふるさと長岡の先人』より おんだちかこ/作画 エイブルプロモーション/提供

河井継之助

かわい つぎのすけ

1827(文政10)年~1868(慶応4)年